

# 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

## ベトナム・シンガポール研修 を通して

石田 進 登  
Shinto ISHIDA  
機械システム工学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日～9月7日にかけてベトナム、ハノイとシンガポールにて企業見学、現地大学生と交流、海外で活躍されている経営者の方々と交流などを含む、ASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的な日程を表1に示す。本稿ではプログラムに参加した目的、研修内容とそこで学んだこと、ベトナム・シンガポールと日本の比較、プログラム全体を通して得たものとそれをふまえた今後の目標について記す。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	ハノイ着 オリエンテーション
8月30日(水)	企業見学
8月31日(木)	大学間交流、フィールドワーク
9月1日(金)	リサーチ、プレゼンテーション
9月2日(土)	ベトナム観光
9月3日(日)	シンガポール着 オリエンテーション
9月4日(月)	大学見学
9月5日(火)	ビジネスパーソン交流
9月6日(水)	シンガポール観光、出国
9月7日(木)	帰国

### 2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した目的は、グローバルな視野を広げることである。また、ここ数年、2011年3月11日に発災した東日本大震災により、日本の企業はリスク回避と復興を目指し海外に進出したと書かれた記事を読んだので検証したい気持ち

で参加した。

### 3. 研修内容

今のプログラムでは表1にて示したように様々なプログラムがあった。その中で、私は特にベトナム・シンガポールの両国での講演会や交流会で多くのことを学んだ。そして、それは、自分の将来について深く考える貴重な時間となった。

#### 3.1 トークセッション

シンガポールで4名のビジネスパーソン、築野さん・寺島さん・大野さん・芝崎さんと話す機会があった。この交流の中で、なぜ日本ではなくシンガポールで働こうと思ったのか、またなぜいまの会社を経営するに至ったのか等の話しを聞いた。中でもシンガポールで“TAOSOS.PTE.LTD”を設立された築野さんの話に特に刺激を受けた。まず築野さんは、大学生時代は多国籍企業論を学んでおられました。そして大手企業に就職し、“自分にお金を払わせる会社を創る”という志を持ち、1986年に紙媒体での通信をする会社へ移られ、それから時代の流れに合わせて株式会社を3社起業されました。ここで私が驚いたことが3点あります。1つ目に、築野さんはパソコンゲーム開発会社を設立され成功されました。また2つ目に、Apple社 iPhone の Siri のようにパソコンと簡単な会話ができるサービスを提供する会社をつくり、ヒットしたにも関わらず、いつも同じ商品は売れないといいデザインを変えました。そして3つ目に、たまたまラジオで日本の主要貿易相手がアメリカから中国に変化したと聞き、中国人向けにビジネスを始める計画をされました。しかし、尖閣諸島問題が日中間で起こり、反日デモ広まった。それにより中国で起業は断念したが、情熱を捨てなかった。以上の3点より、私は社会に出ても勉強を継続することで可能性を広げられることに気づき、さらに時代の流れ敏感になることはビジネスチャンスが生まれると知った。また、自分の思いとは裏腹に政治的な問題が起きたにも関わらずに売

れると信じて果敢に挑戦されている姿は成功する秘訣なのだと考えた。

最後に、ビジネスパーソンの方々には、私たちに興味をもったことは全力でやり日本人が得意のサービスデザインを他の国に当てはめて考え、新しく仕組みを考えられる実力を持つべきとアドバイスをくださった。私は、まず日本のサービスデザインを見つめなおしたい。そして、日本の暮らしとは違う外国にあったサービスを提供できるようになりたい。

### 3.2 加藤さんの講演

4名のビジネスパーソンの方々とトークセッション終了後、日本で事前に配られていた『若者よ、アジアのウミガメとなれ』の著者であり実業家の加藤順彦さんの講演があった。講演の中で、加藤さんは、2050年になると日本の人口は約9515万人になり労働していない人が約60%もいる社会になり、単純労働が減ると言われた。ここで私は危機を感じた。なぜなら、今から33年後に私は会社に勤めていると考える。だが、単純な仕事は人工知能等にとって代われ、人に求められるのはクリエイティブな仕事だ。だから、大学生のうちからしっかりと勉強をして専門知識を身につけ、それと並行して自分で物事を考え新たな創造をする訓練をしなければいけないと思った。また、加藤さんは講演の中で、人と違ったポジショニングができるかを考え、実行することで自分の身を守えることができ、また特殊であることが大事と言われた。

### 3.3 私が考えるビジネスパーソン像

私は、シンガポールとベトナムでたくさんの海外で働かれている方々と交流する機会があった。その

中には様々な背景で海外で働く人だった。例えば、日本で起業した会社が倒産したや、日本食のレストランを運営してみたかったなど海外で働くようになった経緯がある。また、私がビジネスパーソンの方々とお話しさせていただいた中で一つの共通点を見つけた。それは孔子の論語から引用できる。「子曰く、学は及ばざるがごとくするも、猶おこれを失わんことを恐る。」これは、私たち人間は日々学びながら生きているが、新しいことに挑戦している人は生き生きしている。きっと「学び」が日々の生活を豊かにしていて、それには終わりはないという意味である。出会ったビジネスパーソンの方と話すとき「私は今こんなことに興味があって・・・」や「この企業知ってるか？この企業は・・・」など私たち学生よりも好奇心が旺盛でより実現するぞといった気迫を感じました。このような点が、孔子が言う努力し実現するところが今回交流させていただいた方々に共通する部分だと考えた。

## 4. おわりに

今回のプログラムを通して英語力の低さと情報を収集し活かす力が不足していることに気付いた。なので、これからは英語力と行動力の向上に努める。そして、数年後には話をしてくださった方と一緒にお仕事ができるように日々すべきこととやりたいことのバランスをとり、計画、そして実行していきたい。

貴重なアドバイスをしてくださったビジネスパーソンの方々をはじめとして、異国からきた私たちを温かく迎えてくれたハノイ工科大学の皆様や、ベトナム・シンガポールで引率してくださった先生等に心より御礼申し上げます。